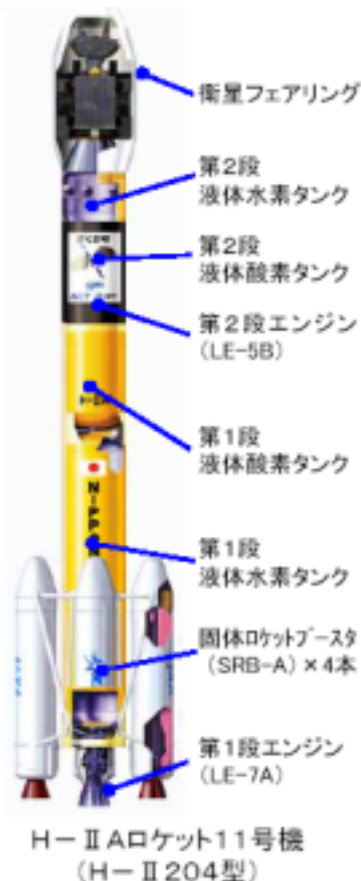


World News

ロケット関連ニュース

1. H-IIA ロケット 11号機の打上げ12月16日に決定

宇宙航空研究開発機構(JAXA)は、平成18年12月16日15時32分(日本時間)から15時44分に、種子島宇宙センターから技術試験衛星 VIII 型「きく8号」を搭載した H-IIA ロケット 11号機(H-IIA204型)を打上げると発表した。H-IIA ロケット 11号機の射場作業は10月1日から開始。



H- 204型 JAXA 提供

全段射点総合点検を問題無く終了した。また11月9日に実施した極低温点検において確認された不適合についても適切に処置を完了。衛星フェアリングとロケット機体との結合作業も完了。12日からカウント作業を開始した。搭載される「きく8号」は8番目の技術試験衛星で2つの大型展開アンテナと2つの太陽電池パドルをもった、世界最大級の静止衛星である。



【衛星/PAF結合】

衛星は 今後多様なミッションに対応する世界最高水準となる静止軌道上3トン級の大型静止衛星バス技術の実証、地上端末の小型化を可能にする高精度でロバストな世界最大で最先端のモジュール構造の S-Band 19mx17m 大型展開アンテナ技術の実証、携帯電話サイズの端末で静止衛星と直接通信し、小型・携

帯端末でコンパクトディスク並みの高品質な音声や画像の伝送を可能にする移動体音声通信実験及び移動体衛星デジタルマルチメディア同報通信システム技術通信実験を行う、衛星に搭載された高精度時刻基準装置による衛星測位システムの高度化を目指した基盤技術の確立を行う事を目的としている。

過去の打上げ実績：

試験機 1号機[平成 13年 8月 29日打上げ]

試験機 2号機[平成 14年 2月 4日打上げ]

3号機[平成 14年 9月 10日打上げ]

4号機[平成 14年 12月 14日打上げ]

5号機[平成 15年 3月 28日打上げ]

6号機[平成 15年 11月 29日打上げ] 失敗

7号機[平成 17年 2月 26日打上げ]

8号機[平成 18年 1月 24日打上げ]

9号機[平成 18年 2月 18日打ち上げ]

10号機[平成 18年 9月 11日打ち上げ]

- JAXA 2006.12.13 プレリリース記事 -

2. Ariespace社は韓国の COMS-1 衛星の打上げ契約を締結

Ariespace社は韓国のCOMS-1多目的衛星の打上げ契約を韓国宇宙航空研究所(KARI)と締結した事を発表した。

Jean-Yves Le Gall(アリアンスペースの最高経営責任者)、とDr. Hong-Yul Paik (KARI所長)はCOMS-1衛星の打上げ契約にサインした。COMS-1はAriane5によって仏領ギアナ・クールーのヨーロッパ宇宙センターから2008年末から2009年6月の期間に静止移行軌道に打上げられる計画である。韓国からのこの最新の契約は韓国電話通信業者(Korea Telecom)に

対するKoreasat3通信衛星に始まり、それに続くKARIのKitsat AとB科学マイクロサテライトの打上げからの協力関係である。COMS-1契約は、1980年3月のアリアンスペース社設立から同社が契約した278番目の打上げ役務契約であり、2006年に調印された12番目の契約である。通信、海洋、気象衛星1号(COMS-1)は打上げ時重量約2,600kgで、気象観測、海洋探査を含む3個のペイロードを搭載している。軌道位置確保の為に、ブロードバンド、マルチメディア通信サービスのための実験ペイロードを搭載している。衛星主契約者はAstrium Satellitesで、気象観測用イメージャー及び海洋観測ペイロードを搭載したEurostar3000衛星プラットフォームを用いてCOMS-1を製造する。実験通信ペイロードはKARIによって供給される。

-Ariespace 2006.12.4 プレリリース記事

3. Ariespace社はAriane5で2機の WildBlue-1衛星とAMC-18衛星の打上げに成功

12月8日(金)7:08pm(Kourou時間)に、Ariespace社はAriane5ロケットECAを打上げ、WildBlue Communications社のWildBlue-1衛星とSES AMERICOM社のAMC-18衛星を静止トランスファー軌道に投入する事に成功した。

この打上げはAriane5の30回目の打上げに当たり、16番目の成功になる。ここ12カ月間、Ariespace社は12機の通信衛星、と1機の実験ペイロードを軌道に投入した。今日、Ariane5は同時に2個のペイロードを打上げる事ができる唯一の商用打上げロケットである。コロラドに本社の



Ariane5 ECA Arianespace 提供

あるWildBlue Communicationsは、2004年7月にAriane5によって打上げられた TelesatのAnik F2衛星を用いて、インターネットのサービスを提供している。WildBlue-1衛星で、会社は地上サービスが存在しないゾーンに位置する個人ユーザ及び中小企業への広帯域サービスを提供する事が出来るようになる。AMC-18は、Arianeロケットでの25番目の打上げとなるSES Global社の衛星です。SES Globalは世界の主要な衛星オペレータで、AMC-18衛星は、SES AMERICOM社の衛星で、最も大きい18の衛星のを経営する合衆国の衛星サービス供給業者で、主としてアメリカ大陸でサービスを展開している。SES Global社の傘下の会社として、SES AMERICOMは世界中のどこへでも通信サービスを提供している。

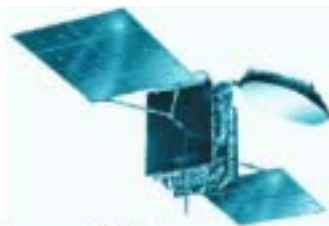
WildBlue-1/AMC-18ミッション



衛星仕様 (Satellite Specifications)	
衛星名称 (Satellite Name)	WildBlue-1 (AMC-18)
衛星重量 (Satellite Weight)	4,735 kg
衛星寿命 (Satellite Lifetime)	15 years
軌道 (Orbit)	Geostationary Earth Orbit (GEO)
軌道傾斜角 (Orbit Inclination)	0°
軌道高度 (Orbit Altitude)	35,786 km
周波数帯域 (Frequency Bands)	Ku-band, Ka-band
サービスエリア (Service Area)	North America, South America, Europe, Africa, Asia
製造会社 (Manufacturer)	Space Systems/Loral
打ち上げ会社 (Launch Provider)	ArianeSpace
打ち上げ日時 (Launch Date)	2004-07-15
打ち上げ場所 (Launch Site)	Guiana Space Centre (Kourou)
打ち上げ機 (Launch Vehicle)	Ariane 5 ECA
打ち上げ重量 (Launch Weight)	10,000 kg

WildBlue-1 Arianespace 提供

WildBlue-1は、広帯域インターネット・サービスに特化した最初の衛星である。打上げ時重量は 4,735kgでSpace Systems/Loralによって製造された。35spotbeamsを提供して、合衆国、国の最も孤立している領域に広帯域インターネットアクセスを提供するのを可能にする。衛星は西経111.1度に静止される。



衛星仕様 (Satellite Specifications)	
衛星名称 (Satellite Name)	AMC-18 (WildBlue-1)
衛星重量 (Satellite Weight)	4,735 kg
衛星寿命 (Satellite Lifetime)	15 years
軌道 (Orbit)	Geostationary Earth Orbit (GEO)
軌道傾斜角 (Orbit Inclination)	0°
軌道高度 (Orbit Altitude)	35,786 km
周波数帯域 (Frequency Bands)	Ku-band, Ka-band
サービスエリア (Service Area)	North America, South America, Europe, Africa, Asia
製造会社 (Manufacturer)	Space Systems/Loral
打ち上げ会社 (Launch Provider)	ArianeSpace
打ち上げ日時 (Launch Date)	2004-07-15
打ち上げ場所 (Launch Site)	Guiana Space Centre (Kourou)
打ち上げ機 (Launch Vehicle)	Ariane 5 ECA
打ち上げ重量 (Launch Weight)	10,000 kg

AMC-18 Arianespace 提供

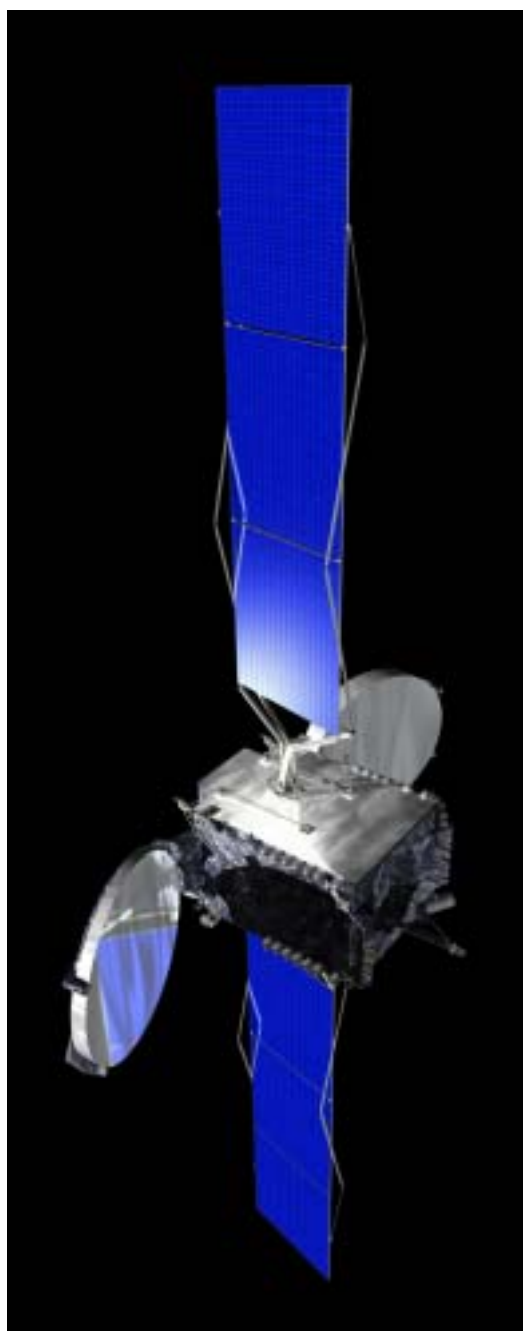
AMC-18はLockheed Martin Commercial Space Systems社で、同社の標準衛星プラットフォームA2100を使用して製造された。打上げ時の衛星重量は2,081kgで、24のアクティブな大電力C-バンドトランスポンダーを搭載し最低15年の設計寿命を有している。AMC-18衛星は西経105度の静止軌道から合衆国に対しケーブルテレビ配信サービスを提供する。

- JAXA 2006.12.8 プレスリリース記事 -

衛星関連ニュース

1. Optus D1 通信衛星が Ariane5 ロケットで打上げられた

Orbital Sciences Corporation社(ORB)は、オーストラリアのOptus Networks Pty株式会社(Optus)のためにOrbitalによって組立てられたOptus D1商用通信衛星が、10月13日(金)にAriane5ロケットで打上げられ予定軌道に投入された事を発表した。Ariane5は10月13日午後4時56分(米国東部時間)に仏領ギアナのクールーの射場から打上げられ、Optus D1衛星は打上げ約32分後に、静止移行軌道に投入された。衛星との初期通信リンクは確立され、投入初期段階の性能を維持している事を確認した。Optus D1衛星は、OrbitalがOptusのために製造している2つの衛星の最初の衛星である。2番目の衛星(Optus D2)は2007年に完成し、同年に打上げを予定されている。2つのOptus衛星はOrbitalのSTAR2.4プラットフォームで製造された。この衛星プラットフォームはOrbitalの衛星バスで最も大きく、最も強力な商用通信衛星バスである。(プラットフォームは、およそ5キロワットのペイロードパワーを発生



OPTUS D1 Orbital 提供

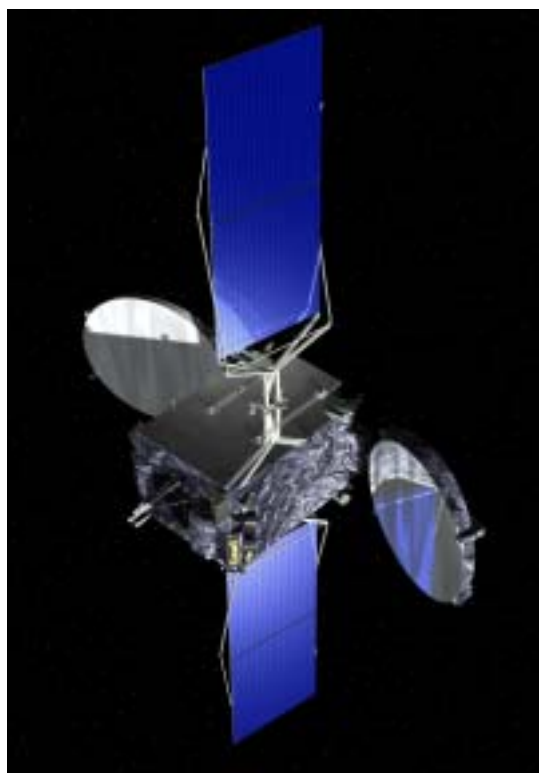
させることができ、打上げ時において5,000ポンド(2,500キログラム)以上の重量がある)。Optus衛星は設計、製造、および試験をOrbitalのダレス(ヴァージニア州)工場の最先端衛星生産施設で行われている。Optus D1衛星は東経160度の静止軌道位置からKu-バンドで運用サービスを行う。

衛星は、オーストラリアとニュージーランドへDTHテレビ放送サービスを提供するように設計されている。後数日間、Optus D1衛星は、地球の2万2300マイル(3万5800キロメートル)上の静止軌道に到達するために一連の軌道を上げる操作を実行する。その後の数週間、衛星が最終的な引き渡し準備の為に包括的な軌道上試験を行いOptus社に引き渡す予定である。

- Orbital 2006.10.16 プレスリリース記事 -

2. Orbital社はSES NEW SKIES社からNSS-9衛星を受注

Orbital Sciences社(ORB)は、11月20日、オランダのSES NEW SKIESによってNSS-9商業通信衛星の製造に関する契約を締結したと発表した。この衛星はOrbitalの宇宙実績のあるSTAR2プラットフォームで製造される予定で、2.3キロワットのペイロードパワーを発生させて、28のアクティブなトランスポンダーを運用する予定である。NSS-9衛星は、東経183度の静止軌道位置に配置される計画であるが、SES衛星群の軌道へも配備できる設計となっている。NSS-9衛星オーダーはOrbital社が受注した18番目の静止商用通信衛星である。「2008年打上げ予定のNSS-9の調達と2007年1月打上げのNSS-8で、SES NEW SKIESは私たちの顧客に送信容量UP、軌道上衛星のバックアップ体制、および総合的な衛星群の柔軟運用が可能となり、大変な利益をもたらす事ができると期待している。」と、Robert Bednarek(SES NEW SKIESの社長兼最高責任者)氏は、コメントしました。NSS-9は、2006年にSES GLOBALによっ



NSS-9 衛星 Orbital 提供

て発注されたOrbitalのSTARプラットフォームに基づく2番目の衛星である。Orbitalは、今年、Alcatel Alenia SpaceとSTARバスの供給に対しチームをくみ、SES AMERICOMのAMC-21衛星のシステム・インテグレーションを実施した。

「私たちは、衛星サービス企業のSES GLOBALグループの別のこの新規契約受注に関して非常に興奮しています。」と、Ali Atia博士(Orbitalの静止衛星ユニットのヘッド)は喜びを述べた。

- Orbital 2006.11.20 プレスリリース記事 -